

**決算説明資料  
(2017年度)**

2018年 5月 31日



# 2017年度 決算概要

## 2017年度の総括

●当年度のわが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善などが続き、個人消費や設備投資の持ち直しが見られる等、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方、米国政権の政策運営や中国経済の動向、世界的な地政学的リスクの高まり等もあり、景気の先行きは依然として不透明さを拭えない状況が続いております。

●このような経済環境の中、原子力発電所からの受注は減少したものの、主要顧客である民間製造業や、インフラ改修需要の高まりを受けた建設業に加え、中国のPM2.5対策関連の受注が増加したことから、呼吸用保護具全般の年度を通じた受注は、前年度を上回る水準で推移しました。この結果、売上高は107億95百万円と前年度比2.7%の増収となりました。

●一方、利益面では、前年度に続き、新製品の投入を積極的かつ計画比前倒しで進めたことにより、生産効率の向上への対応や金型投資等、諸経費増が避けられませんでした。この結果、製品原価率は高止まりし、売上総利益は31億39百万円と、前年比1.9%の増加に止まりました。また、販売費及び一般管理費は、新製品拡販活動を積極展開したことを主因に、前年度比1.0%増加の30億48百万円となりました。

●以上のことから、営業利益は92百万円（前年度比41.5%増）、経常利益は1億5百万円（前年度比53.9%増）、また法人税等の更正による還付金32百万円もあり、当期純利益は1億3百万円（前年度比5.0%増）となりました。

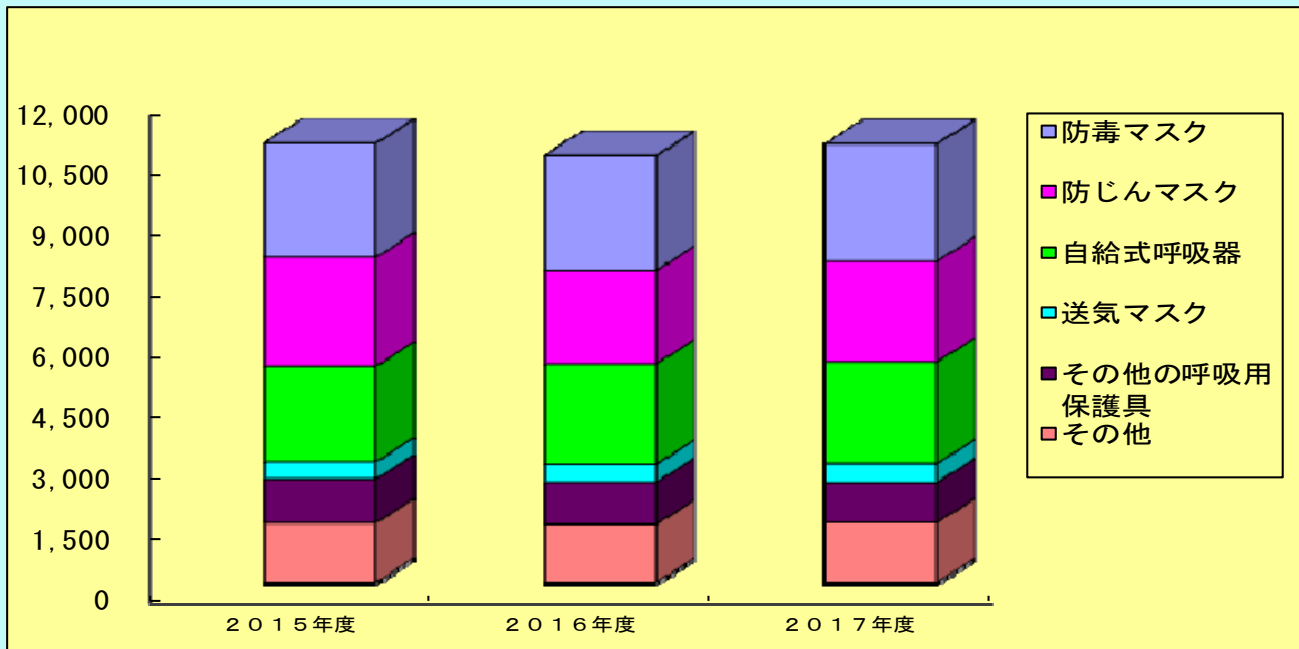
## 2017年度 損益の状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

|            | 2015年度   | 2016年度   | 2017年度   |         |         |
|------------|----------|----------|----------|---------|---------|
|            |          |          | 実績       | 前々期比 増減 | 前期比 増減  |
| 売上高        | 10,809.5 | 10,509.7 | 10,794.8 | △ 14.7  | 285.1   |
| 製品製造原価     | 4,664.2  | 4,864.2  | 5,025.0  | 360.9   | 160.8   |
| 商品原価       | 2,570.7  | 2,563.4  | 2,630.4  | 59.7    | 67.0    |
| 売上原価       | 7,234.9  | 7,427.7  | 7,655.5  | 420.6   | 227.8   |
| 売上総利益      | 3,574.6  | 3,082.0  | 3,139.3  | △ 435.3 | 57.3    |
| 販売費及び一般管理費 | 2,975.5  | 3,017.3  | 3,047.7  | 72.2    | 30.4    |
| 営業利益       | 599.1    | 64.8     | 91.6     | △ 507.4 | 26.9    |
| 営業外収益      | 42.6     | 58.1     | 62.8     | 20.2    | 4.7     |
| 営業外費用      | 58.5     | 54.5     | 49.2     | △ 9.2   | △ 5.2   |
| 経常利益       | 583.1    | 68.3     | 105.2    | △ 478.0 | 36.8    |
| 特別利益       | 0.0      | 104.4    | 0.0      | 0.0     | △ 104.4 |
| 特別損失       | 99.8     | 9.5      | 0.4      | △ 99.4  | △ 9.1   |
| 税引前当期純利益   | 483.3    | 163.2    | 104.8    | △ 378.6 | △ 58.5  |
| 法人税等       | 170.4    | 6.4      | 3.5      | △ 167.0 | △ 2.9   |
| 法人税等調整額    | △ 18.0   | 58.4     | △ 2.1    | 15.9    | △ 60.5  |
| 当期純利益      | 330.9    | 98.5     | 103.4    | △ 227.5 | 4.9     |

## セグメント別売上高推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

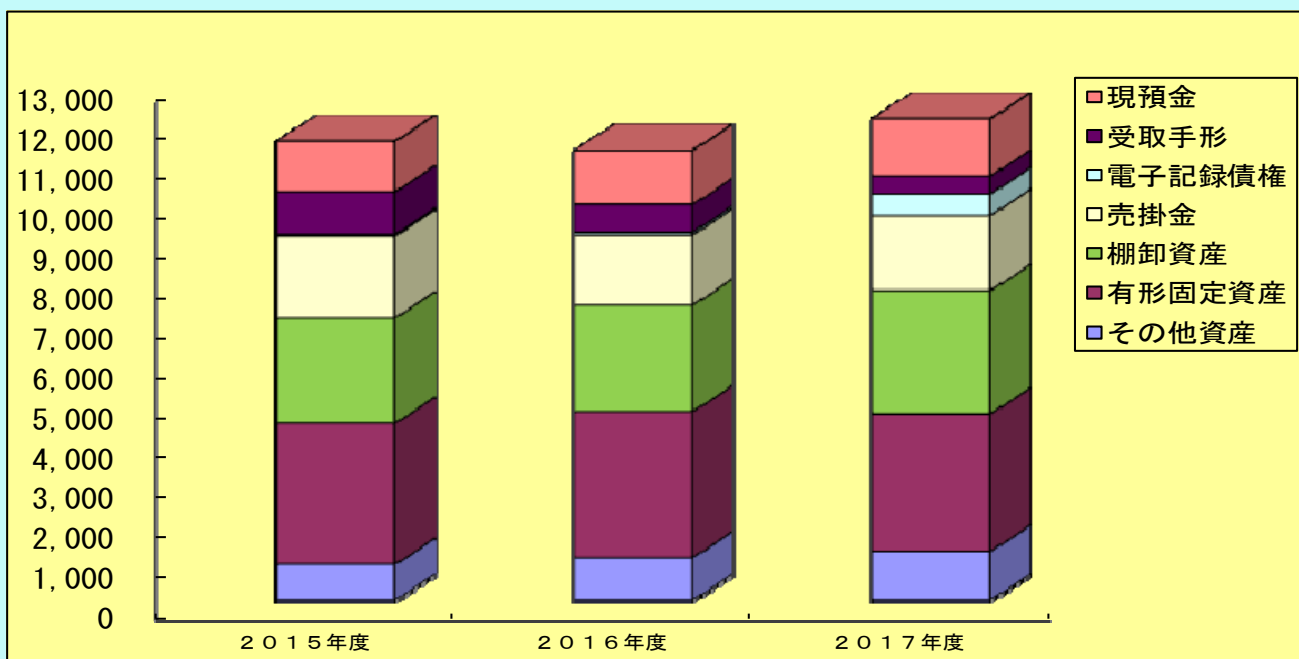
|            | 2015年度   | 2016年度   | 2017年度   |
|------------|----------|----------|----------|
| 防毒マスク      | 2,804.4  | 2,824.9  | 2,887.3  |
| 防じんマスク     | 2,678.3  | 2,300.5  | 2,476.1  |
| 自給式呼吸器     | 2,353.7  | 2,471.2  | 2,503.7  |
| 送気マスク      | 425.8    | 446.6    | 468.1    |
| その他の呼吸用保護具 | 1,078.7  | 1,030.4  | 982.5    |
| その他        | 1,468.6  | 1,436.1  | 1,477.1  |
| 合計         | 10,809.5 | 10,509.7 | 10,794.8 |

## 当年度の特徴

- ① 当年度のわが国の経済は、全体として緩やかな回復基調で推移してきたものの、海外経済の不確実性や世界的な地政学的リスクの高まりもあり、景気の先行きは不透明な状況が続いています。
- ② このような環境の中、民間製造業や建設業からの堅調な受注に加え、中国からの受注増が、原子力発電所からの受注減をカバーし、売上高は、前年度比2億85百万円の増収となりました。
- ③ 主要品目別では、前年度比で防毒マスクが62百万円、防じんマスクが1億76百万円の増加、一方、その他の呼吸用保護具が電動ファン付き呼吸用保護具を中心に48百万円の減少となりました。
- ④ 自給式呼吸器は前年度比33百万円、送気マスクが21百万円、上記以外の主要品目も合計で41百万円の増加となりました。

## 主要資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

|        | 2015年度   | 2016年度   | 2017年度   |
|--------|----------|----------|----------|
| 現預金    | 1,263.8  | 1,352.8  | 1,435.0  |
| 受取手形   | 1,066.5  | 692.6    | 450.4    |
| 電子記録債権 | 36.4     | 68.9     | 539.7    |
| 売掛金    | 2,055.7  | 1,762.4  | 1,886.0  |
| 棚卸資産   | 2,646.0  | 2,671.9  | 3,090.1  |
| 有形固定資産 | 3,539.0  | 3,658.3  | 3,446.0  |
| その他資産  | 897.8    | 1,068.7  | 1,225.0  |
| 合計     | 11,505.2 | 11,275.7 | 12,072.2 |

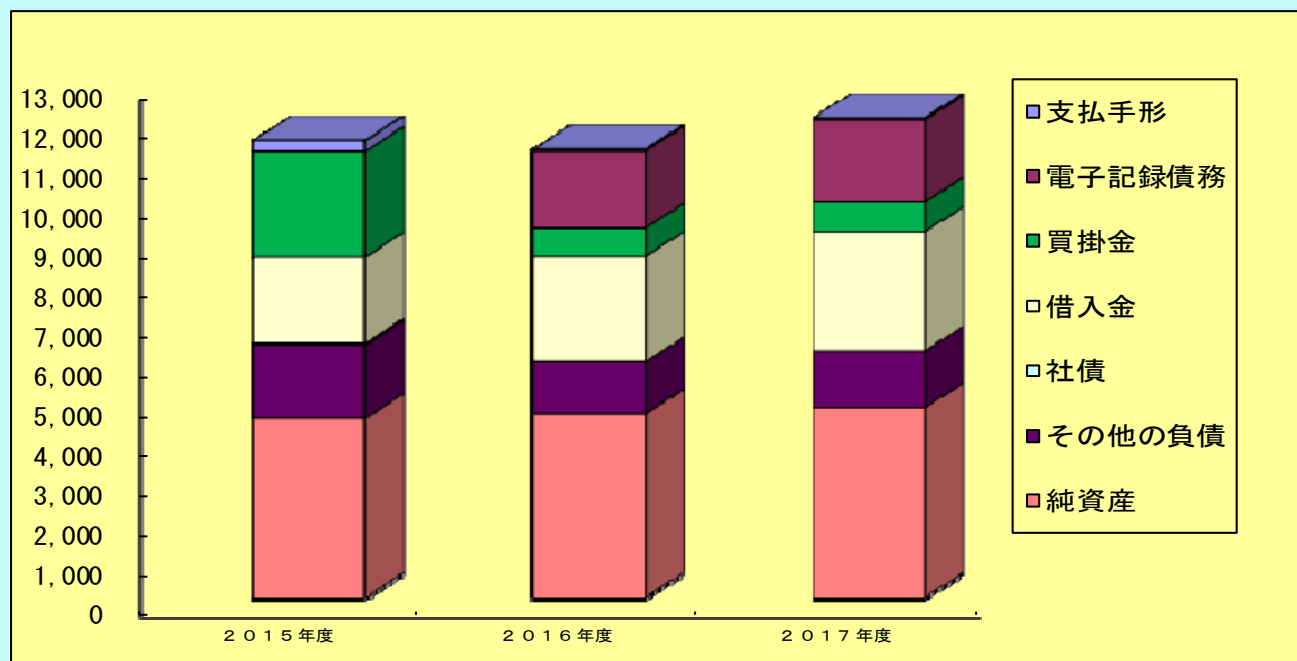
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は、簿外のため含まれていません。

## 当年度の特徴

- ① 現預金の残高は、前年度末比で82百万円増加していますが、これは、長期借入金の折り返しのタイミングによるものです。
- ② 売上高の増加に伴い、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）残高は、3億52百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、引き続き、製商品供給体制の増強を図る目的で、材料・仕掛品・製品及び商品の全てで在庫を積み増した結果、全体で4億18百万円の増加となりました。
- ④ 有形固定資産残高は、建設仮勘定が51百万円増加したものの、既存生産設備及び金型の減価償却の進捗により、全体では2億12百万円減少しました。
- ⑤ その他資産は、保有株式の株価の上昇を受け、投資有価証券が2億9百万円と大幅に増加したことから、全体でも1億56百万円の増加となりました。

## 主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

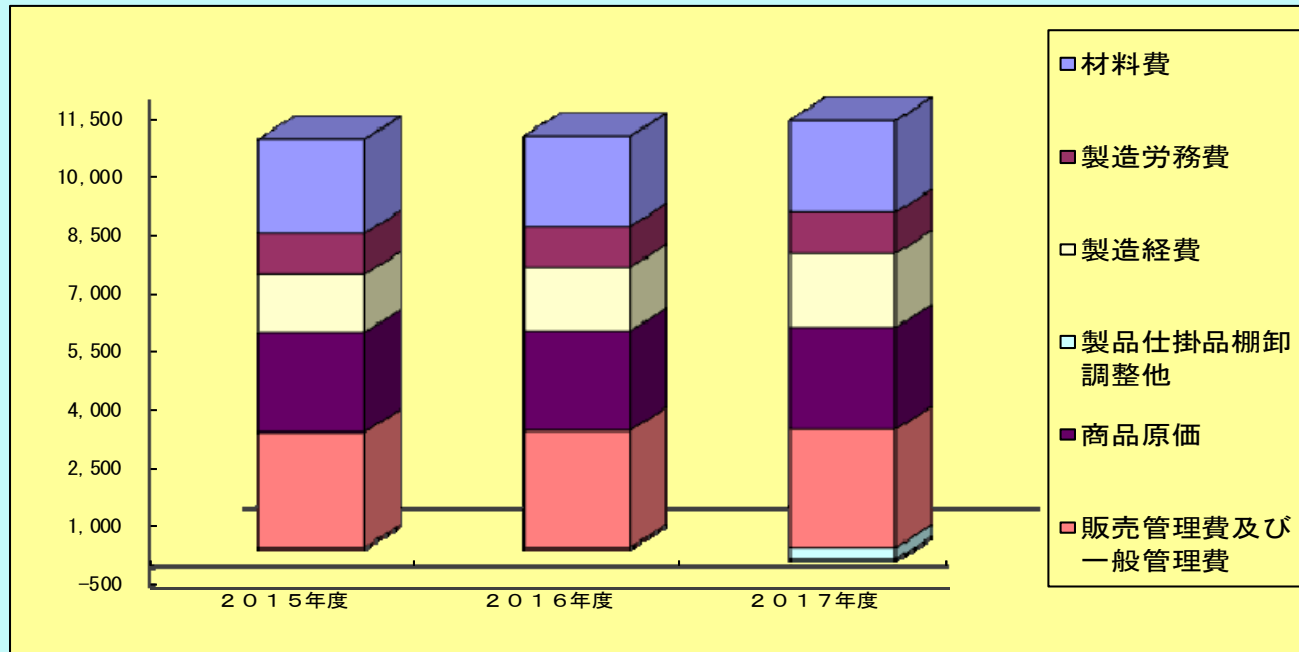
|        | 2015年度   | 2016年度   | 2017年度   |
|--------|----------|----------|----------|
| 支払手形   | 274.0    | 36.8     | 43.4     |
| 電子記録債務 | —        | 1,936.1  | 2,067.4  |
| 買掛金    | 2,654.6  | 714.1    | 743.9    |
| 借入金    | 2,177.7  | 2,662.0  | 3,010.0  |
| 社債     | 40.0     | 0.0      | 0.0      |
| その他の負債 | 1,848.2  | 1,304.1  | 1,422.7  |
| 純資産    | 4,510.7  | 4,622.5  | 4,784.6  |
| 合計     | 11,505.2 | 11,275.7 | 12,072.2 |

## 当年度の特徴

- ① 支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）残高は、売上高の増加に伴い前年度末比では1億68百万円増加しました。
- ② 借入金及び社債の残高は、第4四半期に長期借入の折り返しによる資金調達を進めたことから、前年度末比で3億48百万円増加しました。なお、前年度に続き、社債による資金調達は実施しておりません。
- ③ その他の負債は、未払費用、未払法人税等、繰延税金負債などが増加した結果、全体では前年度末比で1億19百万円増加しました。
- ④ 純資産の残高は、前年度末比で1億62百万円増加の47億85百万円となりましたが、総資産の増加もあり、自己資本比率は、前年末比では1.4%低下し39.6%となりました。

## 売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

|              | 2015年度   | 2016年度   | 2017年度   |
|--------------|----------|----------|----------|
| 材料費          | 2,425.2  | 2,330.9  | 2,368.6  |
| 製造労務費        | 1,054.6  | 1,048.7  | 1,058.2  |
| 製造経費         | 1,495.3  | 1,645.2  | 1,906.4  |
| 製品仕掛品棚卸調整他   | △ 310.9  | △ 160.6  | △ 308.1  |
| 商品原価         | 2,570.7  | 2,563.4  | 2,630.4  |
| 販売管理費及び一般管理費 | 2,975.5  | 3,017.3  | 3,047.7  |
| 合計           | 10,210.4 | 10,444.9 | 10,703.1 |

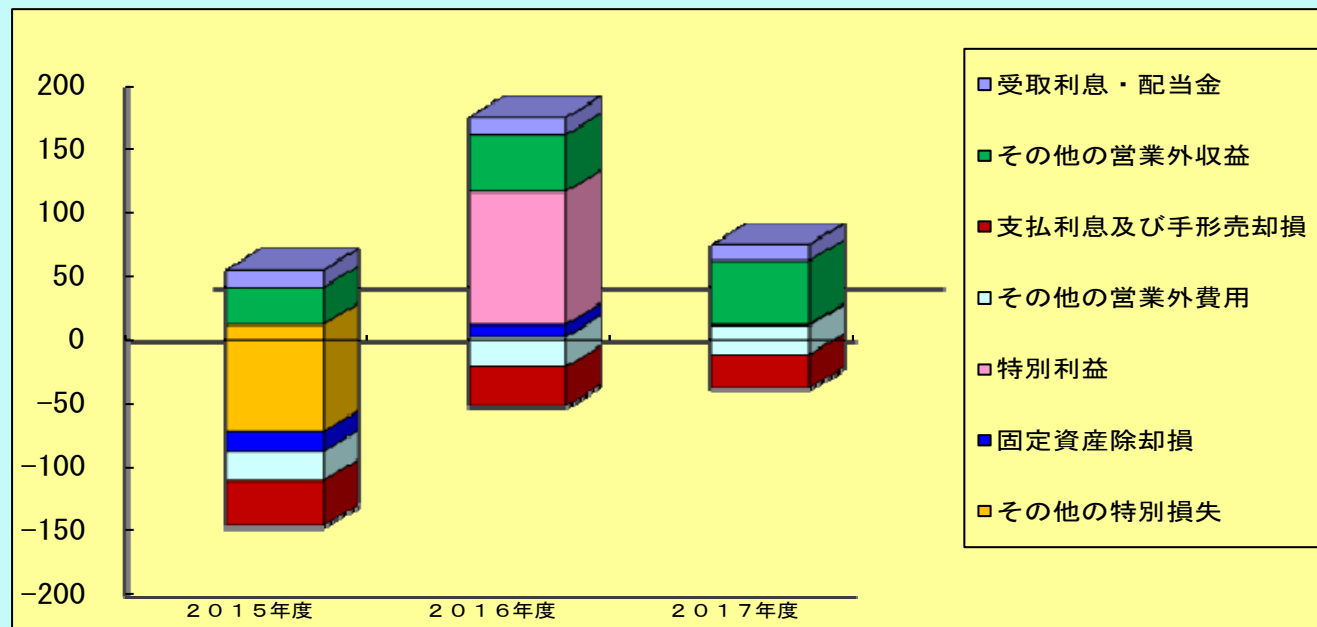
## 当年度の特徴

- ① 製造部門は、製品売上高の増加にもかかわらず、新製品関連の生産効率向上や金型投資等を積極的に進めた結果、製品原価率は前年度並みの水準で高止まりしました。
  - ・材料費は、製品売上高の増加に伴い前年度比で38百万円の増加となりました。
  - ・製造労務費は、前年度比で9百万円の微増に止まっております。
  - ・製造経費は、減価償却費、外注加工費、修繕費の増加を中心に、前年度比では2億61百万円の増加となりました。
- ② 商品原価は、前年度比で67百万円増加しましたが、商品売上高の増加もあり、対売上高比率は、ほぼ前年度並みの水準を維持しております。
- ③ 販売費及び一般管理費は、前年度に続き、積極的な新製品拡販活動を推進したことから、前年度比では30百万円の増加となりました。



## 営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

|       | 2015年度      | 2016年度 | 2017年度 |        |
|-------|-------------|--------|--------|--------|
| 営業外損益 | 受取利息・配当金    | 13.5   | 13.3   | 12.8   |
|       | その他の営業外収益   | 29.1   | 44.8   | 50.0   |
|       | 支払利息及び手形売却損 | △ 35.6 | △ 30.8 | △ 26.4 |
|       | その他の営業外費用   | △ 22.9 | △ 23.7 | △ 22.9 |
|       | 営業外損益合計     | △ 15.9 | 3.6    | 13.5   |
| 特別損益  | 特別利益        | 0.0    | 104.4  | 0.0    |
|       | 固定資産除却損     | △ 15.4 | △ 9.5  | △ 0.4  |
|       | その他の特別損失    | △ 84.4 | 0.0    | 0.0    |
|       | 特別損益合計      | △ 99.8 | 94.9   | △ 0.4  |

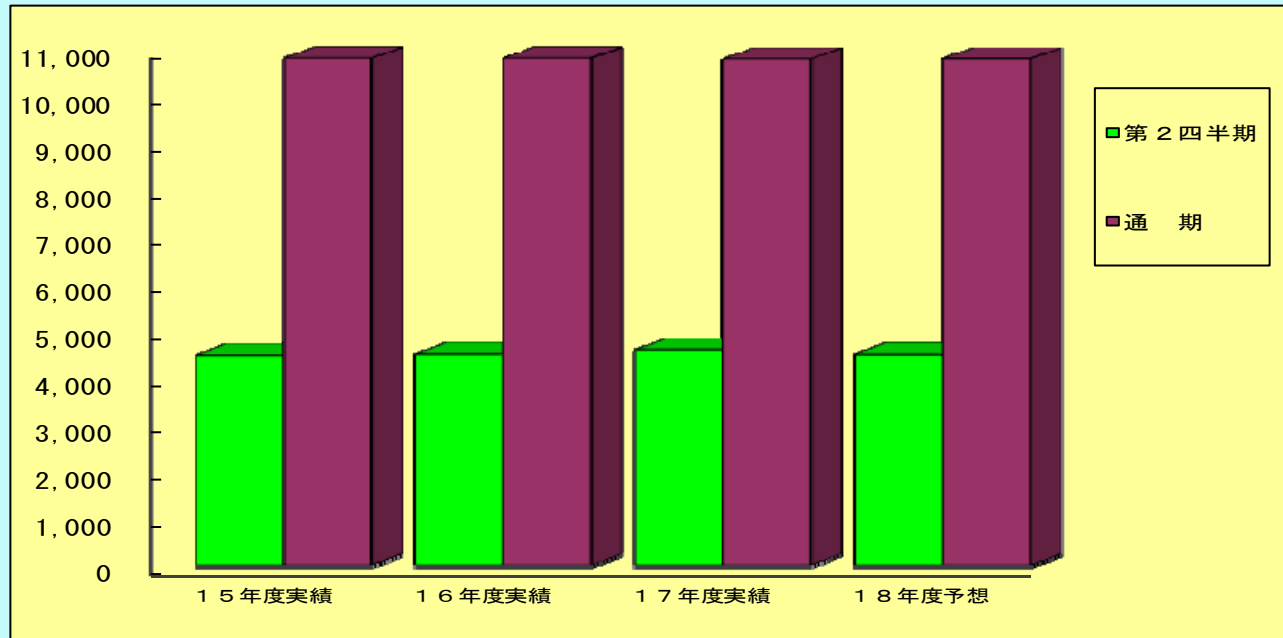
## 当年度の特徴

- ① 前年度比では、受取利息・受取配当金が微減となった一方、ロイヤルティが大幅に増加したことから、その他の営業外収益は5百万円の増加となりました。
- ② 引き続き、資金調達コストの削減を図ったことから、支払利息及び手形売却損は、前年度比5百万円の減少となりました。
- ③ 今年度は、特別利益として計上すべきものは特にありません。
- ④ 少額の固定資産除却損を除くと、特別損失として計上すべきものも特にありません。

# 2018年度 業績予想

## 2018年度の売上予想

(単位：百万円)



(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

|       | 15年度実績 | 16年度実績 | 17年度実績 | 18年度予想 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 第2四半期 | 4,480  | 4,507  | 4,591  | 4,500  |
| 通期    | 10,809 | 10,510 | 10,795 | 10,800 |

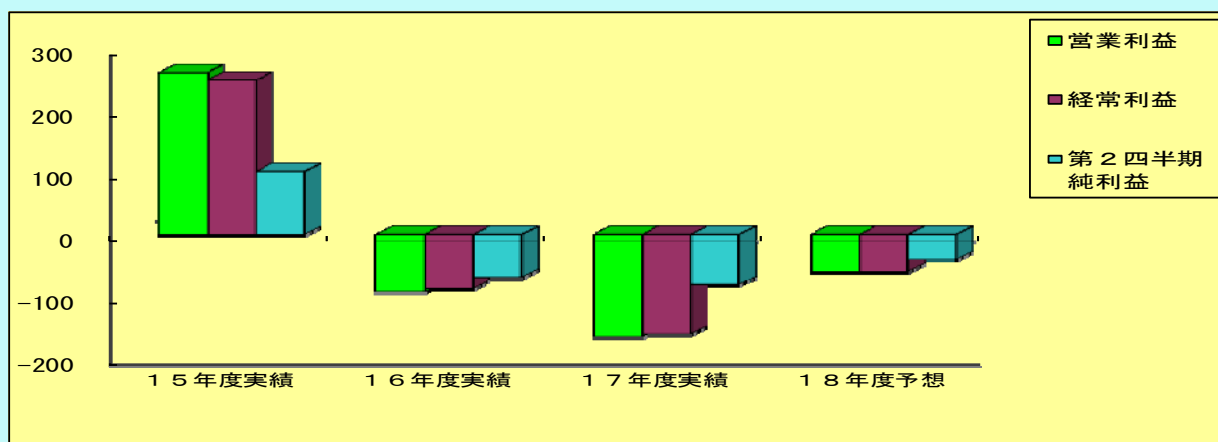
## 予想のポイント

2018年度におけるわが国の経済は、総じて堅調な海外経済を背景に、政府の経済対策のもと、設備投資や個人消費も増加傾向をたどると予想されるなど、緩やかな拡大を続けると見られます。その一方で、米国の政策運営や中国の経済動向、地政学的リスクの高まりなど政治経済上の不確実性もあり、景気の先行きは不透明な状況が続くと思われま。

当社としましては、2018年度も、今後の多様化する顧客ニーズに応えられるよう新製品の研究開発に積極的に取り組むとともに、将来に向けた事業基盤の整備・強化に寄与する営業活動にも継続して注力して参ります。以上の経済環境及び経営方針を踏まえ、2018年度の売上高は、前年度比で横ばいの108億円を見込んでおります。

## 2018年度 第2四半期の利益予想 (単位：百万円)

## 予想のポイント



2018年度第2四半期は、前第2四半期をやや下回る売上高を、利益面は、年度を通した新製品の研究開発及び拡販に伴う各種費用の先行計上があるものの、営業利益、経常利益、第2四半期純利益とも前年度比では相応の改善を見込んでおります。

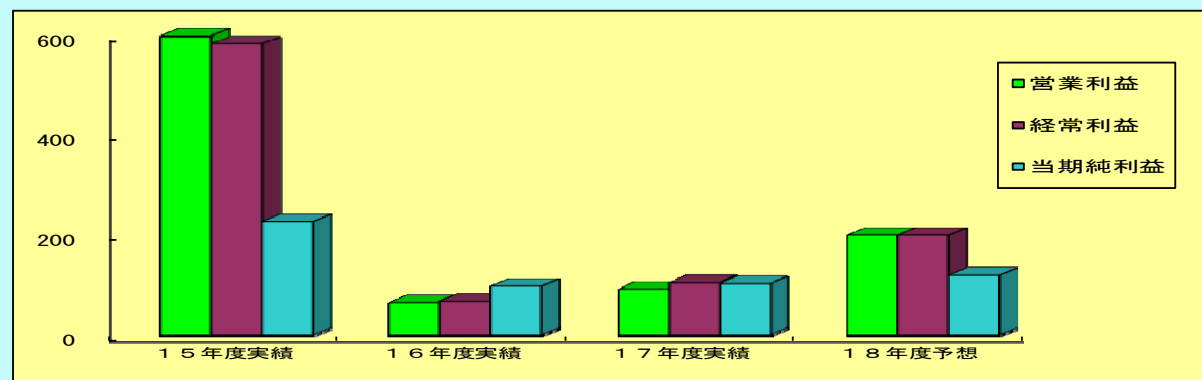
(単位：百万円、小数点未満四捨五入)

|          | 15年度実績 | 16年度実績 | 17年度実績 | 18年度予想 |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| 営業利益     | 261    | △92    | △164   | △60    |
| 経常利益     | 249    | △87    | △160   | △60    |
| 第2四半期純利益 | 102    | △69    | △81    | △40    |

## 2018年度 通期の利益予想 (単位：百万円)

2018年度通期は、景気の先行きに不透明さはあるものの、研究開発及び生産面での効率化、新製品拡販活動の一層の強化を図ることで、前年度以上の営業利益、経常利益、当期純利益を見込んでおります。

(単位：百万円、小数点未満四捨五入)



|       | 15年度実績 | 16年度実績 | 17年度実績 | 18年度予想 |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 営業利益  | 599    | 65     | 92     | 200    |
| 経常利益  | 599    | 68     | 105    | 200    |
| 当期純利益 | 331    | 98     | 103    | 120    |